



森づくり、森遊び

by カニ山の会
参加者 17名



水ぎめの後
重い土をかぶせる



紙製の特別な
縄土の中で
自然に還る



加えて、砂場遊びくらいの経験しかない幼い子にとってスコップを使って穴掘り、根を掘り起こして移植、それは桁外れに大きなスケールの作業です。体重をかけてスコップを突き刺し土を削ぐ、それだけでも初体験。身の回りの当たり前前に存在するものがどれだけの労力で作られるのか、それを体で感じさせるだけで、何よりの学習になるはず。これからも子供たちといっしょに森を育てていきたいと思っています。

文章で書くとは簡単な作業ですが、実際は大変な作業。1m近い穴を掘る労力、土を崩さない様に、根を傷めない様に掘る集中力、重要な根は残しながら根株を整えていく技術、そして、何よりも根株の重いこと、重いこと。大の男4〜5人で竹の棹にくくりつけた株を担いで運びます。全て人力で行う事の大変さを実感した貴重で楽しい体験でした。

4月9日(土) 一般の方も参加して移植作業
まず昨年「根回し」をして準備しておいたケンポナシとコナラ・クヌギを掘り出し、麻布と縄で根の周りを養生します。次にあらかじめ株よりも一回り大きな穴を掘っておいた移植先に運んで植え、最後に水をやって終わり。

深大寺自然広場、カニ山キャンプ場(の北側)に「ドンダリの森」があります。以前ツバキ畑だったところにドンダリから育てた苗木を子供たちといっしょに植え、いつかは武蔵野の雑木林になることを夢見て手入れをしています。これらの苗木も少しは大きくなり、過密になってきたため今年はスペースのある所に移植することになりました。



手作りブランコで
ゆらゆら



傾斜地での竹の伐り方を教わりました。倒れる方向など注意が必要です。安全第一!



出来栄はいまいち

午後には竹を伐り出し、キャンプ場で竹炭作り。アオキ・松カサ・堅めの木片などはきれいに出来ましたが椿の花や柔らかい葉などは失敗しました。竹も詰めすぎて完全に燃焼せず失敗。缶にザックリ入れて詰めすぎないように注意しなければと実感しました。今回はこの経験を生かしたいと思っています。
竹炭が焼けるのを待つ間にサツマイモやリンゴ、マッシュマロを焼いて新緑の中でのティーブレイク。楽しくて美味しい一日でした。(中原 彰子)

花の履歴書 37

戸部英貞 (絵・文)

ノダフジ (野田藤) マメ科



Wisteria floribunda

フジの仲間には北米及び東アジアに数種が知られ、そのうち2種が日本に自生しています。単にフジの名で呼ばれ、栽培されている多くはノダフジで、そのほかに関西以西にはヤマフジが自生し、両者とも日本固有種で、たくさんの園芸品種があります。

ノダフジの名は大阪の野田が藤の名所であったことから名付けられたもので、両者の違いはノダフジの花穂は30センチ以上で、園芸品種には1メートル以上になるものもあり、蔓は右巻きであるのに対し、ヤマフジは花穂が短くすぐぐりして、蔓は左巻きなので判別できます。(蔓の巻き方は時計回りを右巻き、反時計回りを左巻きとされ、右手で蔓を握って親指の向きが右巻き、その他の指の向きが左巻き。)

関西以北の山地にも野生のフジは見られ、山地に生えることから「山藤」と呼ばれていますが、関西以西に自生するヤマフジとは別の種類で、すべてノダフジです。山地に見られるフジは根元から新しい茎を這うように伸ばし、やがて立ち木に巻き付いて立ち上がって行きます。私たちには美しい花を楽しませてくれるフジですが、放置すると巻き付かれた木は締め付けられ生長できず、やがて枯死してしまいます。そのため造林関係者からは「絞殺しの木」と呼ばれ、毎年フジ退治に大変な労力を要する嫌われ者なのです。

各地にフジの名所は知られていますが、市内にも、甲州街道(国道20号)沿いにある國領神社には、通称「千年乃藤」と呼ばれるノダフジがあり、神明社が当地に遷座した際の寛永17年(1640年)には既に存在しており、樹齢四百五百年とも言われ、「調布八景」の一つに数えられています。

◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給(國領町あたり)生まれ
投網(とあみ)

昔の投網は明治期から昭和初期までみんな手作りで一反作るのに八ヶ月くらいかかったそうです。

網作りには竹製の網針(親父はヤハズと言っていた)と桁(目板)を使って網目の大きさを調節するのです。投網の結び方方には十まわり(一尺の間に十個つくる)、十二とおり、十四とおり(小さい魚を捕る細かい網目)などがあり、裾の目数は880〜960網が使われました。その網裾にはヤト

昔の多摩川⑧

言われる幾つもの錘(おもり)が付いています。これには鉛を溶かして鋳型に流して作った物を使いましたが、網の大きさによって数や重さは色々です。錘の重さで網が水中にはやく沈み川底にびたりつき、網に入った魚を逃がさないのです。網の糸も木綿、麻糸から絹糸になり戦後はナイロンなどの化学繊維を用いて作られるようになった。

うになりました。

戦前の投網(漁)は儲かったので道具にも気をつかい、漁の後は柿渋を塗って竿に干し、丈夫にして大事に使っていました。うちの親父は自分でも青柿を採ってきて、白でつぶして煮詰め、渋を作っていました。いくつも網を持っていた人は八王子の川口にあった柿渋屋さんから渋を買って使っていたようです。また冬には渋が凍らないように樽ごと地面に埋めて保管していたというところもあったようです。

参考：調布市史民俗編・多摩川中流域の漁撈具(立川民俗シリーズ)ほか



鉛の付いた昔の投網



網針(ヤハズ)



桁(目板)

ちょうふあちこち

国領神社のノダフジ



今年もきれいに咲きました。
4月26日 鈴木八代伊

深大寺裏の緑地



まさににょきにょき。
5月1日 鍛冶直美



とらないで!

「若葉の森」でキンランが咲き始めました。先週、3・1会の臨時作業で、昨年「盗掘」被害のあった第2緑地下段の生育地にロープを張りました。今日は地元のカフェ、ニワコヤの方に素敵なイラスト入り警告を作ってもらい、キンランのそば3個所に取り付けました。

どちらも初めての試みです。効果があるといいのですが。

今日(4/21)は、三鷹中原から毎年キンランを見にくるといふ2人連れの女性と出会いました。見守る目を増やすことが、「盗掘」などをやりにくくすると思います。

(大村哲夫)

春のチョウ色々

チョウ好きの観察記



テングチョウ



4月22日、入間町あたりの緑地に早くも「テングチョウ」が現れました。橙色が綺麗な蝶です。テングチョウ。1科に1種の蝶です。頭部のとんがり帽子の様なところを天狗の鼻に見立てたのが名前の由来となっています。(写真ではわかりにくいですが横から見ると触角の内側に伸びる突起があります) 高尾山の林道で、天狗様のお使いみたくによく見られ、林の縁をチラチラとゆっくり飛んだり地面で暖まっています。

今日は、アオスジアゲハ・キアゲハ・アゲハ・キタキチョウ・スジグロシロチョウ・モンシロチョウ・ベニジミ・テンとでしよう。(衛藤 謙二)

グチョウ・ツマグロヒヨウモン・コムスジ・ヒメウラナミジヤノメの11種が見られました。もう1枚は昨年の5月3日に撮りまじしたコムスジの珍しい交尾の写真です。近くの成城四丁目公園とかちよつとした林があれば棲息している蝶です。意外に人なつこい蝶でじっと指をかざ



コムスジ

こちらは春のガ

それは、白い糸のようなものでした。フワフワと風に浮かんでいるような流されているような。これまでに見たことのない不思議な飛び方をしています。しばらくしてようやくとまったのでじっくり見てみると、長いヒゲをもった体長1cmにも満たない昆虫です。ハチなのかハゴロモの親戚なのか???

そこで石川和宏さんに写真を送って教えていただきました。「クロハネシロヒゲナガ」というガだそうです。「マンマヤンカ」とつっこみを入れたくなる名前で、なぜか「髭長蛾」の最後の「ガ」が省略されています。ヒゲが長いのはオスだけで、春のこの季節だけ成虫を見ることが出来る「春の王子様」だそうです。来年また会えるかな。

4月23日 都市森の丘にて

(中原彰子)



環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

● 6/19 (日) 9:30 ~ 12:30

● 7/17 (日) 9:30 ~ 15:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

● 6/11 (土) 10:00 ~ 12:00

● 7/9 (土) 10:00 ~ 15:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

● 6/12 (日) 9:30 ~ 12:00

● 7/10 (日) 9:30 ~ 12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

● 6/5 (日) 9:30 ~ 12:00

● 7/3 (日) 9:30 ~ 12:00

凸凹森の会

● 6/26 (日) 10:00 ~ 12:00 定例活動

● 7/31 (日) 10:00 ~ 12:00 流しそつめん

希望者は直接凸凹森へ。



先の5団体の保全活動問合せは 緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋(布田)、ニワコヤ(仙川)、など。置き場所&応援カンパ募集中です!

◆会員募集! 年会費1000円/サポーター会員500円 郵便振替 00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆